



第3期産業振興計画 ver. 2 の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（専門部会等報告）

1	農業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	林業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	水産業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	商工業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5	観光部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
6	連携テーマ部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	6

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（農業部会報告）

1. 第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価

【主な意見】

- 1) 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化
 - ・ 昨年の台風で多くのハウスが被害を受けたが、既存のハウスの高強度化に対する事業などが必要ではないか。
 - ・ 環境制御技術の普及などにより、全体の出荷量を上げる取組は進んでいるが、厳寒期（11～2月）の出荷量は年々減少傾向であるため、厳寒期の出荷量を向上させる取組を進めていくべきではないか。
- 2) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築
 - ・ 土佐あかうしの増頭対策がますます重要になってくると考える。
 - ・ イタドリについて、今後一層栽培面積の増加や加工商品の増加が期待されており、有望な品目であると考えている。

2. 今後の取り組みの方向性について

平成30年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下の意見・要望等が出された。

【主な意見】

- 1) 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化
 - ・ 「高育76号」について、今後一層普及を推進してもらいたい。
- 2) 生産性を支える担い手の確保・育成
 - ・ 新たな労働力の掘り起こしとして、障害のある人が一次産業に従事する取組は非常にすばらしい。
- 3) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築
 - ・ 中山間地域に向けた施策が充実してきているようで心強い。
- 4) 流通・販売の支援強化
 - ・ 卸売業界としても、今後も高知県産の園芸作物の販売を積極的に推進していきたい。

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（林業部会報告）

1. 第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

【主な意見】

1) 原木生産のさらなる拡大

・基幹林道の予算の減少などにより路網密度が上がっていかない中で、林道整備促進協議会において現在ワーキンググループを立ち上げて検討が進められている11路線については、林業専用道のみで進んでいくのではないかと懸念している。また、国道や県道、市町村道とのアクセスの問題があり、市町村や県土木部との連携も大事だと思う。

⇒11路線については、林業専用道のみではなく、地形やコストなど全体を見ながら、林道、林業専用道、林業専用道規格相当のどれが効果的かを協議している。また、協議会には市町村も参画してもらっており、庁内では社会資本整備推進本部会議があるので、こうした場も活用して情報共有していく。

2. 今後の取り組みの方向性について

平成30年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

【主な意見】

1) 原木生産のさらなる拡大

- ・木を売っても造林費用が捻出できない中、再造林への意識づけをしっかりとしてほしい。
- ・原木生産に力を注ぐことは一番大事であるが、素材の流通コストを下げる仕組みを考えて、山元にお金を還元し再造林ができる形を目指してほしい。
- ・機械開発については、使えるものができるように良く考えて進めてほしい。
- ・国の森林環境税の取り組みにより新たな森林管理システムも導入されるが、林業の成長産業化により中山間に人が定住できるようにして地域の活性化を図っていく必要がある。
- ・森林施業は従来の間伐主体から主伐など多様な施業が入ってきて、機械技術や路網も人も複雑多様化してきている。県として機械の稼働率を高めるシナリオなど指針やモデルを示してもらえれば、森林所有者の意欲にもつながるのではないかな。

2) 木材需要の拡大

- ・木造建築に携わる技術を持った大工が減ってきている。木材を扱える技術者がいないと木造建築は破たんする。早目に技術者のレベルや人数を把握し対策を行うことが必要ではないか。
- ・住宅着工が減少する中、木材需要の拡大には非住宅建築物への木材利用にしっかりと取り組まないといけない。
- ・全国的にみると高知県の特用林産の生産額は少ない。小規模林業を進める中で、シイタケのみならず他のキノコについての支援もお願いしたい。

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（水産業部会報告）

1. 第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価した。

【主な意見】

1) 漁業生産の構造改革

- ・新規漁場の開拓における定置網や養殖、中型まき網の遊休漁場の再開、新規参入等に向けた取組の具体を教えてください。

2) 担い手の育成・確保

- ・県外から漁業者になりたいとって移住してくる人の動機はどのようなものが多いか。釣りが好きなのか、収入面なのか。
- ・新規就業者の県内外の内訳や年齢構成はどのようになっているのか。
- ・新規就業者の確保に当たっては、新規就業者の分析をした上で、どういった人をターゲットにどのように取り組んでいくのかを検討するべきではないか。

3) 流通・販売の強化

- ・「応援の店」の取組は、登録店舗数や取引額が増えて成果がでていると思う。これまで施策を進めきた中で課題と考えていることや、今後の展開はどのように考えているのか。

2. 今後の取り組みの方向性について

平成30年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見等が出された。

【主な意見】

1) 全体

- ・改定のポイントについては、高知県の水産振興や漁村の活性化に必要な内容となっている。

2) 漁業生産量の構造改革

- ・クロマグロの養殖は、10年前ほどは高知は奄美等と比べて成長が悪く、養殖用種苗の供給とての間育成の場としてのイメージがあったが、高知県でもクロマグロ養殖の採算性が成り立つようになったのか。
- ・クロマグロの取組が進んでいることは評価。クロマグロの人工種苗の生産はどれくらいの尾数を生産すれば採算に合うようになるのか。

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（商工業部会報告）

1. 第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

【主な意見】

- 1) 高知版 I o T の推進（第一次産業等における生産性向上プロジェクトの推進）
 - ・ニーズに対して I o T を活用したシステムを作り、製品化して、導入してもらうためにはかなりのノウハウ・技術力が必要となる。県内企業の実力を上げていく取り組みも推進していただきたい
 - ・ I o T の先端的な事例をアドバルーンとして出していき、高知県ではこういう I o T を推進していますとアピールしていくことも考えてはどうか
 - ・ I o T を広げていくために、誰でもイメージができるような I o T の説明、定義が必要
- 2 就職支援の推進
 - ・新規学卒者の就職支援として、県内企業の魅力を知ってもらう活動も大事だが、県内での暮らしやすさなど、住環境等のメリットを伝えることも必要

2. 今後の取り組みの方向性について

平成 30 年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

【主な意見】

- 1) 生産性向上（省力化・高付加価値化）及び働き方改革への支援
 - ・食品なら食品、I o T なら I o T と、その中だけで考えるのではなく、横串で見られるような仕組みを作ることが必要ではないか
- 2) 地域の事業者の経営力強化
 - ・商工会・商工会議所と地域の事業者、金融機関、信用保証協会等との連携というキーワードが多くでてきているが、この連携が重要であり、いかにスムーズにさせるか、また、いかに掘り下げていくかが県の役割だと思う
 - ・経営計画については、作っただけで終わりということでは意味がないので、フォローアップもきちんとし、経営改善に結びつく事例も出てくれば、個店、特に中山間地域には励みになる
- 3) 高付加価値な製品開発への支援
 - ・ I o T ・ A I の産業振興のためには、考える力、新しい発想力のある人材を育てなければならない。これは食品産業でもサービス業でも同様

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（観光部会報告）

1. 第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

【主な意見】

（MICEの受け入れ強化について）

・大学でも学会誘致を積極的にできるようになってきたことは県の支援による成果と感じている。大学の学生の実習でフィールドスタディが増えてきており、スタディツアーのような設定ができればいい。

・MICEとスポーツでも誘致の成果がでていていると感じる。

（維新博の推進について）

・維新博の開催で地域会場も補助を活用し、県内の文化施設はこれまでにないくらい活性化してきた。継続していくためにはもう数年の後押しがあるとありがたい。

（戦略的な観光地づくり）

・観光地に向けて道路が狭く危険という場所もあるのでそのあたりも考慮に入れる必要があるのではないか。

2. 今後の取り組みの方向性について

平成30年度の改定のポイントについては、了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

【主な意見】

（ポスト幕末維新博について）

・アウトドアやアクティビティは健康を求める観光客が増えるという話もあり、有効。

・核となるアウトドア拠点の管理運営については専門的な大きな事業者が担うこととなると思うが、県内事業者でもノウハウ蓄積等ができていくことで県内でお金が循環することも視野に入れて取り組んでいただきたい。

・アウトドア拠点の整備を進めているが、地域が盛り上がり、持続的な取り組みになるためにもインストラクターやガイドの人材育成が必要。

・学ぼうとする側から見ると、創生塾やMBAなどメニューが多くなってきているので、全体をまとめたものがあるといいと思う。

・観光地間を移動する手段としてサイクリングやカヌーを利用する高知県版スイスモビリティの仕組みがあれば面白い。

（インバウンド対応とおもてなしの推進について）

・外国人観光客が増えてきており、空港対策等はぜひ案のような取り組みに力を入れていただきたい。

・インバウンドを考えたときに、歴史とあわせて文化の磨き上げも必要であるので、他県には例のないこうちミュージアムネットワーク等を活用して取り組んでいけばよいのではないかと。

・クルーズ船で増加してきている外国人客については、高知市以外の地域や施設でもチャンスを活かすことができるようクルーズ船の入船情報やセールスする具体的な方法などの情報を市町村や観光協会へ共有していただければと思う。

第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（連携テーマ部会報告）

■第3期産業振興計画 ver. 2の取り組みに対する評価及び今後の方向性について

事務局の説明に対し、部会員から以下のようなご意見・提案等が出された。これらのご意見等を踏まえ、今後の取り組みを進めていく。

【主な意見】

＜担い手の育成・確保＞

1) 新規学卒者の県内就職支援

- ・ 県外へ進出する学生は、外の世界を見てみたいというマインドを持った人が多く、県内就職を考える人は少ないと思う。さらに、今の世代の若者は、小さい頃からITのある環境で育ってきたこともあり、違ったマインドを持っていると思われるため、若い世代の就職に関するマインドを捉えて対策を講じる必要がある。
- ・ 高知の企業は面白い仕事をしている企業が多いにもかかわらず、プレゼン力が弱く、学生に理解されないこともあり、ミスマッチが起こっている。一方で、インターンシップの受け入れに際し、大学以上に学生の就職意識を高める取り組みを行っている企業もある。こうした企業が増えるよう、県から働きかけてもらいたい。

2) 働き方改革

- ・ 出産、子育てにより退職した女性の再就職支援も重要であるが、そもそも、出産、子育てを機に会社を退職せざるを得ないという状況を変えないといけない。

＜起業や新事業展開の促進＞

1) 起業支援に関する情報発信等

- ・ 起業は難しいイメージがあるので、きっかけ作りが大事。成功事例をもっと県民にPRすることが必要。
- ・ 産業振興計画で促進している起業とは、地方で新しいイノベーションを起こせる人材を作っていくことと推察。高知でしかできないイノベーションのテーマを作り、人材を呼び込む情報発信が必要。
- ・ 高知県の起業支援策は進んでいるが、起業しやすい土壌をトータルブランドとして展開していくことが大事。多様な職業、技術を学べる環境や相談窓口もあるなど、起業を志す方々に対してフックを引っ掛けやすい環境整備をしていくことでブランド化されると思う。